

## 学校防災教育研究拠点

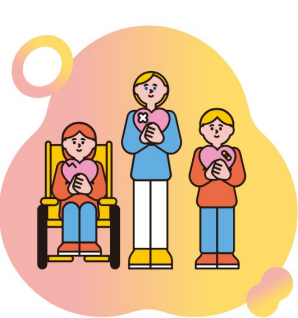
拠点長：久保尊洋

メンバー：鈴木 雅之 高本 真寛 筆保 弘徳 竹之内 健介 木村 昌彦 青木 弘 押味 亨 渡邊 憲一  
中原 幸司 松下 嗣利 海野 功子 丸山 健太郎 奥平 直子 水野 琢磨 望月 佐知 佐宗敏美 貞光千春

災害に対する心理的備えの充実を目指し、心理学、防災工学、気象学など様々な分野と学校教育の実践家である教師とが協働で行う学校防災教育の新たな形態を構築する。そのために、①災害時の心の健康の変化、②災害弱者のレジリエンス、③防災意識の促進要因を明らかにする。これらの研究知見に基づいた④心の防災教育を開発し、心の健康、レジリエンス、防災意識についての効果検証を行う。



## ①災害時の心の変化

災害シナリオに基づく  
心の健康の変化の推定

## ②多様なレジリエンス

障害者、子ども、外国人の  
心のレジリエンスの解明災害に対する  
心理的備えの充実

## ③防災意識

地域文化に関する  
情熱、好奇心など  
防災意識を高める要因の解明④学校における  
心の防災教育附属鎌倉等の児童生徒に  
心の防災教育の効果検証

## 災害に対する心理的備えとは？

防災・減災には、耐震の備えや防災グッズなどの物の備えだけでなく  
災害知識や心のセルフケア能力などの**心理的備え**も必要

## 心理的備え

## 認知的備え

正確な知識・判断、  
具体的な計画とスキル例：ハザードの理解、家族避難計画  
と役割分担、避難経路の確認、備  
蓄・非常持出品、連絡手段の決め方

## 感情的備え

不安やストレスの  
自己調整・対処例：災害時のストレスマネジメン  
ト、支援要請の練習、安心できる  
人・場所のリスト

①行動の質を高め、被害を減らす

②メンタルヘルス低下の影響を緩和

③初期の支援・自己支援を促進

④家庭・地域レベルの回復力を高める

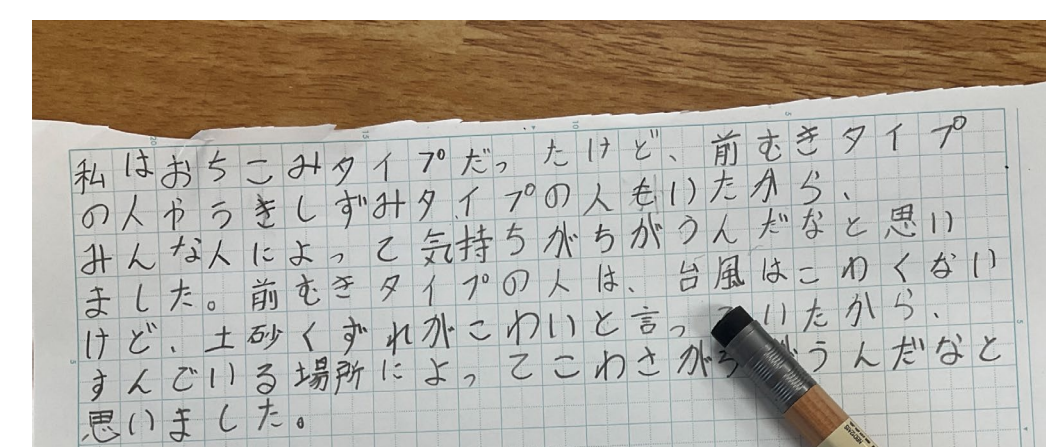
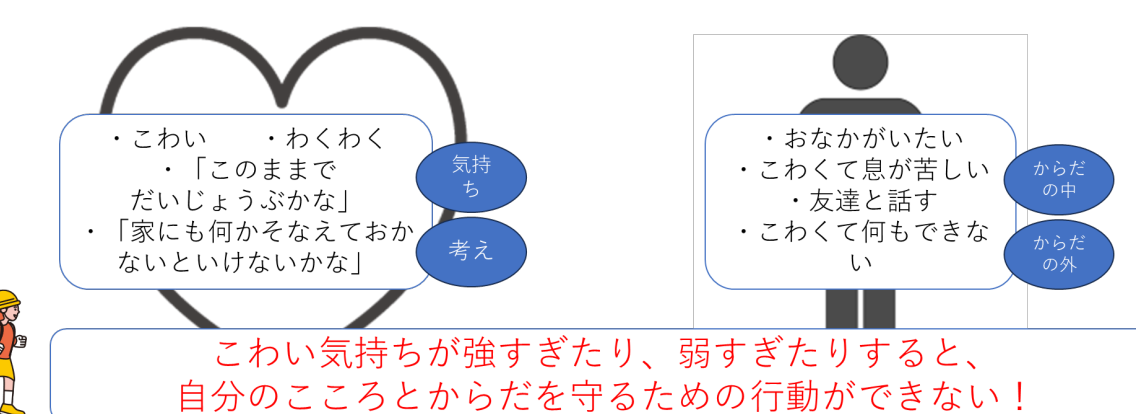
## 防災教育の開発と効果検証（附属鎌倉小）

対象者：小学4年生児童99名（33名×3クラス）

防災教育の内容：

- ・防災教育の授業は、理科と社会の授業で実施
- ・理科の授業では、雨トレを実施
- ・社会の授業では、台風接近時の心とからだへの影響と心理的備えを学ぶ授業を行った
- ・授業後には、授業内容の感想や理解度を訪ねた
- ・教育効果測定は、授業の約1週間前、授業の1週間後に実施

※横浜国立大学人を対象とする非医学系研究倫理専門委員会の承認（非医-2025-44）を得て実施

介入前と介入後の心理的備えの得点を比較  
すると、平均**4.49上昇**（ $p<.00, d=.39$ ）こわいたいけんを  
落ち着いた行動ができなくなるよ

多様な災害への心理的備えの充実を全国の学校現場をはじめ、世界各国の教育現場に！